

<概要版> 調布市民西調布体育館機能移転に関する基本構想

1 策定の背景・目的

背景

- 中央自動車道の調布高架橋がNE XCO中日本による耐震補強工事の対象となっており、同時に、耐震補強工事終了後、路面等のリニューアル工事への着手が予定されている。
- 本工事に伴い、高架橋の下に設置している公共施設への影響が生じる見込みである。
- 高架橋下にある公共施設である西調布体育館について、利用者の継続的な活動機会を確保するため、代替施設を整備し、機能移転を図る。

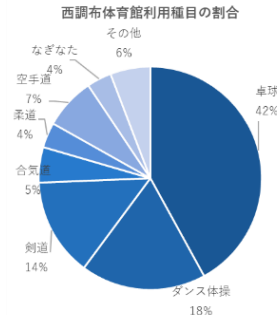
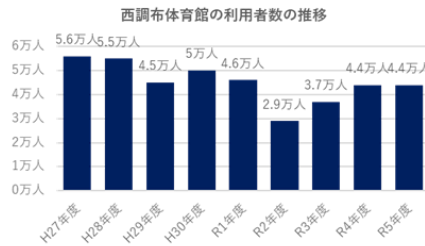
目的

- 西調布体育館機能移転に関する基本構想は、移転先の複合施設の整備に当たり、施設に求められる機能・役割を整理し、利用者や地域等の意見を踏まえながら、本事業の実施に向けた条件を整えるとともに、良好なスポーツ環境や教育環境づくりにつながるよう、施設整備における基本的な考え方をまとめるため、策定するもの。

2 現状

西調布体育館の利用実態 ※令和5年度実績

- 年間利用者は約4.4万人
- 年間利用率は100%、回転率は92.9%
- 利用種目の割合は、卓球が最も多く42%、次にダンス体操が18%、武道系（剣道、合気道、柔道、空手道、なぎなた）が34%



移転の検討経過等

利用者の継続的な活動機会を確保するため、周辺の公共用地等を活用した代替施設の建設による機能移転を視野に、下記3つのSTEPで検討

STEP1 周辺の公共用地の活用検討

- 現地での再整備は困難
- 市民の身近なスポーツ活動の拠点であることを踏まえ、現施設近隣の公共用地の活用を幅広く検討
- 少なくとも現行施設の敷地面積と同規模が必要

近隣の学校敷地（第三小、調布中）の活用を検討

STEP2 近隣の学校施設の活用に向けた比較検討

- 建築計画の自由度、学習環境への影響、周辺環境への影響、利用者の利便性などの観点から比較検討

調布中の敷地活用に優位性

STEP3 学校敷地における整備の方向の検討

- 生徒の学習環境の向上に寄与する機能を検討
- 近年の猛暑による学校の屋外プールに関する課題を踏まえ、水泳授業の安定的実施に向けたプールの屋内化と代替施設の複合化を検討

調布中の敷地を活用し、スポーツ施設（体育館）と学校施設（プール）の複合施設を整備

3 基本構想

基本コンセプト

生涯にわたって誰もが気軽に健康・体力づくりに親しむことができ、豊かな学びを促進する、地域と学校のスポーツ活動の拠点

基本方針

方針1 地域のスポーツ活動の拠点としての機能の充実

- 円滑な競技面の転換や利用しやすいゾーニングの検討など、地域のスポーツ活動の拠点として利用しやすい施設として整備
- 学校の屋内プールについては、学校の教育活動としての使用時以外の時間は地域へ開放できるよう検討
- プールの地域開放や、テニスコート及び弓道場といった学校内にある他のスポーツ機能との有機的な連動ができる管理・運用を検討

方針2 スポーツ活動の場としての機能の充実

- 様々な競技を踏まえた体育室の検討や各種設備の充実を図ることで、快適なスポーツ活動が行える施設として整備
- 現西調布体育館の利用実態を十分に踏まえ、移転後の施設においても、利用種目は基本的に現状を継承するが、幅広い市民利用に資するよう、利用種目の拡充についても検討

方針3 誰もが気軽に健康・体力づくりに取り組める施設の整備

- 年齢や障害の有無、性別等に関わらず快適に使用できるようユニバーサルデザインやバリアフリーに配慮した施設として整備

方針4 世代を超えた交流が図られ、地域コミュニティの活性化に資する施設の整備

- 地域に開かれた施設を目指し、オープンスペースや会議室の設置などを検討
- 日常のスポーツ活動から大会、イベント等、様々な活動を支える、にぎわいと交流が生まれる施設となるよう検討

方針5 地域社会と学校が連携する学びの場としての施設の整備

- 市民利用と学校利用の共存ができるよう、生徒の安全を確保する適切な動線やセキュリティライン、運営方法を検討
- 学校の屋内プールについては、他校が利用する可能性も視野に検討

方針6 防災機能・安全性の確保

- 災害時の避難所等としての利用を念頭に、必要な防災機能や安全性の確保に取り組む

方針7 環境に配慮した施設の整備

- 環境負荷の軽減や省エネルギー化など、地球環境にも配慮

配置計画・ゾーニング

- 配置については、学校運営や植栽・記念樹等への影響、駐車場等の配置、利用者動線やセキュリティラインの確保などを考慮しつつ、既存のテニスコートの扱いも含め、総合的に検討する必要。今後、専門事業者による詳細な現地調査を実施し、最終的な配置場所について学校と協議
- ゾーニングについては、配置計画の総合的な検討を踏まえ、生徒動線や構造上の課題などを考慮し、今後、学校をはじめとした関係者と詳細に協議

事業スケジュール

項目	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
基本構想						
基本計画						
民間活力導入						
設計・建設						

※ 現時点での事業スケジュールのため、今後の検討状況などによって変更となる場合あり